

基本政策：市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						
政策目標：子どもたちの成長を育む多様な学びの場の充実						
施策名：4-1-1 地域総ぐるみの教育の場づくりの推進						
担当部：教育委員会						
改善シート項目	議論結果					
	施策改善推進委員			施策改善市民パートナー		
I 政策目標の実現に向けた施策の取組について	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない
課題が明確になっているか	3	1	0	4	5	3
取組の方向性は合っているか	0	4	0	5	5	2
課題解決に向けて取り組む事業として貢献できているか	1	3	0	6	4	2
II 施策の有効性について	1 有効である		2 有効でない		1 有効である	
政策目標の実現に向けた施策の有効性	2		2		9	
					3	

No.	所属	主な指摘事項、改善提案など
1	推進委員	・中学校部活動地域移行検討事業など、利用者のニーズを最優先に細かく把握する必要性を感じた。 ・中学校部活動地域移行検討事業、地域で支える「地域未来塾」開講事業などについては、市役所の協同先として大学と連携し大学生の参画を進めていただきたい。大学生にできることは限られているが、大学生にしかできない、大学生だからできることが教育委員会の施策にはいくつかあると考える。
2	推進委員	・課題と事業目的の不一致があるので解消する必要がある。事業指標は事業を評価するための重要な項目であるため、事業内容を適切に評価できる指標を設定していただきたい。 ・取組の方向性が課題の一部しかフォローできていないように感じた。今日のレビューで出された意見を元に、視野を広く可能性を広げる方向性を考えていただきたい。全体的に評価指標の数値（母集団や評価指標の設定）について質問が多かった。
3	推進委員	・人材確保に向けての取組に対しての連携や協働化への具体性に欠けている。学校運営協議会の運営とそのアウトプットとしての教育の地域づくりができてきているのかの可視化が必要。部活動指導者の民間委託化の流れを安易に受け入れるのではなく、地域・大学・職域・民間ボランティアなど、もっと現場感をもって入り込んでいく考え方や体制を持っていただきたい。 ・本日の全体を通して多様化、複雑化する社会環境の中での教育は、この施策名である「地域ぐるみ」をいかに具体的に実現し「地域教育力」（学校、行政、地域）が一体となって取り組めるかが問われている。教育にこれで終わりはないので、様々な事業を実施し向上させていくのだという強いコンセンサスをもち続けて取組を進めて欲しい。
4	推進委員	・課題の明確さについては、多くの意見もあった通り教職員の働き方改革という点を、福知山市での課題として含むままでは目的がずれてしまうため②とした。方向性は、「学びの充実」を現状定量的なゴールを目指している感否めなかったため②とした。事業貢献については個々の事業自体は必要性のあるものなので貢献にはつながっている。「福知山モデル」の完成＝政策目標達成になることを期待しての①とした。 ・全体的に市が子ども達の成長を育もうとしている様に感じた。地域ぐるみでどうするか？という余白が直接的な施策ゴールであるので、「場づくり」ではなくあくまで「場づくりの推進」が市の担う役割かと思えます。また「地域性」が課題点でしか出てこないのが個人的に残念に思う。広域の地域コミュニティだからこそメリットになる部分を、市民を巻き込むタウンミーティングなどで聞き取っていただけたら嬉しいです。
5	高校生	・資料をもっと見やすくしてほしいです。
6	市民パートナー	・IIを有効でないにしましたが、有効ではあるがまだ足りない点がありそうという意味でつけさせていただきました。多くエールが送られたと思いますので、ぜひご検討のほどよろしくお願いします。 ・施策推進委員の方々のご指摘が適確だと思いました。質問させていただき丁寧にお応えいただきましたのでよく分かりました。
7	市民パートナー	・「主人公は子ども」「地域力の向上」この2点が明確になっていない！！なにかと地域や住民の目があり大変と思うが守りに入っている。これでは言葉だけ、アリバイ創りだけになってしまう！！我々住民の力を信じて現状と課題を明確にする方が住民の理解が得られると思う。頑張ってください。 ・全国にあまり例を見ない合併スタイルの中で大変だが、それだけにやりがいもある！！小規模校と大規模校のメリットとデメリットがある！！移動手段の問題もあるが、大規模校になじめない子は小規模校に行ってもよいことや、学校ニュース（地域に配布されている）の字が小さいし、校長の話を一面にするより、学校の子どもの様子を大きな字で出すことはすぐにできること！！これらのことで住民の意識改革の一歩になると思う。
8	市民パートナー	・今は無理やり課題を解決してしまうと解決できないものもあると思うので、一つ一つ解決していければいいと思います。 ・部活をしていく子どもたちになるために、協力をしてくれる監督に相談していればどんどん部活が出来るようになると思います。
9	市民パートナー	・部活移行社会人コーチ派遣事業＝現状の環境の中で積極的に取り組んでいただいていると感じます。予算だけではなく、人材（指導者、スクールバスなどのハード要因と運転手の確保）が確保できる社会づくりが必要と感じます。 ・近隣数校で実施する競技をシェアする。（A校：バスケ、陸上、卓球、B校：バレーボール、サッカー、吹奏楽等）中学生は希望する競技の学校へ移動することで、指導者や場所の不足を補うことができるのではないかと。中学生短期留学事業は予算に限りがあるため、参加できない生徒は現場をオンラインでコミュニケーションできるイベントを作り、参画できるようにすると経験値が高まるのではないかと。
10	市民パートナー	・スポーツ指導者のターゲットとする人が明確ではないと感じました。
11	市民パートナー	・質問の仕方が悪かったのかなと思います。サッカーの部活を複数学校で行うとの話であったが、旧3町の中学校の生徒は、自分がやりたい部活が出来ているのか？ここが問題ではないか？個々のニーズの把握がどの程度できているのか？ ・地域で子どもを育てる、地域総ぐるみと言う割には、資格などの制約が多くて難しい感がある。もっとハードルを下げる工夫が必要ではないか。
12	市民パートナー	・施策目標があればそのための計画を立て、実施・評価をする必要がある。「子どもたちの成長が育まれているか」の評価がない。各々の事業の課題も実施に対する課題で子どもの成長につながっていたのか不明確。実施しただけでは子どものため、ひいては市民の施策ではない。「子どもたちの成長を育んでいるのか」という評価をする指標を施策の点検に入れる必要がある。この評価がないと「多様な学びの場」という目標でしかない。 ・地域で支える「未来塾」について、学習支援員の人材確保の募集方法はどのような方法なのか？ハロワやネット等で広く募集すれば集まってくる人は多いと思う。その中からある程度選抜し、支援員になるための研修を行ってあげれば支援員は確保できると思う。支援員になるための研修自体も「市民一人ひとりが～」につながると思う。 ・「はばたけ世界へ～」について、事前学習会で人権学習を実施したとあるが、どのような人権学習内容だったのか。多様化している時代で今の時代の子どもたちに合った人権学習だったのか。ジェンダーレス、LGBTQなどボーダーレスな時代になっている。大人と子どもたちでは意識が違う。 ・「部活動地域移行」について、現在移動手段はどうなっている？移動は生徒の負担になっていないか。部活と学校生活は子どもたちにとって密接な関わりがある。地域移行になることで子どもたちへの影響はどうか。また指導員はシフト制の仕事の人にも働きかけてみてはどうか。福祉や医療職等だったら、●曜日ならできる人もいるのでは？市の職員なので、市民病院のスタッフとか声をかけてみたらどうか。
13	市民パートナー	・一般参加者の御意見が大切な内容だったと思いました。異業種の交流・参加をどのように実現するかが課題かと。（調整が必要）
	コーディネーター	・施策のまとめりとしてこれらの事業は有機的なまとめりを持っているかは疑問です。「部活動地域移行」については課題が大きすぎると思われる。生徒のニーズに合わせた重点化が必要そうである。「中学生短期留学事業」については、「人権感覚」や「人権意識」が前に出すぎている印象である。 ・「二十歳を祝う会」については、「出席者の割合」はアウトカム指標として意味不明である。実数で書いたほうがよいのではないかと。「地域未来塾」については学習支援員のリクルーティングが上手くいっていないということであった。大学生へのつなぎ方には工夫の余地がありそうである。地域の「やりたい」を活かせる道を頭を柔らかくして探していただきたい。

基本政策：市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						
政策目標：子どもたちの成長を育む多様な学びの場の充実						
施策名：4-1-2 子どもの学びと成長の土台づくり						
担当部：教育委員会						
改善シート項目	議論結果					
	施策改善推進委員			施策改善市民パートナー		
I 政策目標の実現に向けた施策の取組について	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない
課題が明確になっているか	3	1	0	2	2	1
取組の方向性は合っているか	3	1	0	2	2	1
課題解決に向けて取り組む事業として貢献できているか	2	2	0	2	2	1
II 施策の有効性について	1 有効である		2 有効でない		1 有効である	
政策目標の実現に向けた施策の有効性	3		1		3	

No.	所属	主な指摘事項、改善提案など
1	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> 心の居場所づくり推進事業などについて、不登校児童生徒数を成果実績にあげているが、この数を減らすような指標を設定し、成果を積極的に把握するようにしていただきたい。 ICT環境整備事業について、利用者である児童生徒にアンケートやヒアリングを行い、満足度や課題を把握し、より細かな施策の実施につなげていただきたい。
2	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> 全てを①で記載していますが、方向性についてもう少し深堀が必要と感じています。例えば「心の居場所…」では会議がPDCAの最初だが、本来は市民からの声（要請）からケーススタディを集めてチェックするのがあるべき姿かと感じた。 不登校に対する取組については、受益者は子どもだけでなく親も含まれると思います。原因は十人十色かと察しますが、どのようなセーフティーネットが有益かというデータは蓄積していけた方が良くと思います。アナザークラスも、人員整備の課題はあると思いますが、小学校での運用を全校配備しても良いくらいでは？実は無理して教室にいる子もいると思うので、テスト的に図書室などに仮設して利用希望を募っても。
3	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> 複雑化、深刻化している不登校傾向にある学生さんに対する居場所づくり相談室は大変貴重な事業ですので、さらに充実させるための体制と一方で減少させていく手段を講じていくという感覚が乏しいのが大問題です。ICT環境整備事業は手段が目的化している。 担当部署は多様な施策を構築し事業を進めているが、ハードとソフト施策の両面で子どもの学びの成長の土台づくりにつなげる不断努力で成果を出してほしい。
4	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> タブレットを購入すれば終わりではなく、それを使って何をやるか、何が効果的、効率的となったかが重要。影響をどう表現するのが課題となるのでは？アウトカムの設定を適切に行う必要がある。 不登校となる児童生徒は、最終0人にしていくことが重要。背景から導き出す課題について、不登校生徒が発生した後の対応についてかなと思われる。不登校児童生徒を減らしていくことも課題となるのではないかと特別支援教育について全く触れられていないので、何も対応されていないのではないかと感じる。
5	高校生	<ul style="list-style-type: none"> タブレットは本当に必要なのかなと思った。
6	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒数をアウトカムで示していただくのは実態が分かりやすく良いと思いますが、「増加率を下げたい」という意図は見えませんでした。不登校を前提とした対策だけでなく、いかに登校できるようにするのという取組を実施いただき、それを示していただきたい。いじめに対しては、加害側へのカウンセリングも必要です。（すでにされていると思いますが） ICTに関し、成和の事例が2回出てきました。好事例はぜひ横展開いただきたいです。
7	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> AI化が進めば、人の仕事がAI化されると考えられ、人の仕事について考える必要がある。子どもは未来に仕事をするのですから。 タブレット端末導入によって、どれくらい教師の負担が減ったのか。
8	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> これらの内容は最低限必要なことで、評価が難しいものだと思います。日々できたこと、達成したことを記録することで、今回のような公開する場で分かりやすくプレゼンできると思います。例）小テストの成績の伸び、電子書籍の活用率（「人口比日本一」など）、受賞歴、教職員の勤務時間の短縮等 ICTを活用した学力の推移は、日々の子どもの成績を集計すれば見える化できると思います。費用がかさむものだけに、手軽、簡便にデータがとれるように工夫されるとより良くなると思います。
9	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ①タブレットに大金はあまりよくない！②自力で学ぶ力がなくなる。 教育課はもっと学校に通い。
コーディネーター		<ul style="list-style-type: none"> 施策としてのまとまりがあるかといわれると難しい。 「心の居場所づくり推進事業」については、不登校が非常に増加している点が心配である。相談が充足している点は高く評価したい。目標値の設定については丁寧に説明するか、もしくは見直しをしていただきたい。 「市立学校アナザークラス」については、指標は実数の方がよい。目標値の設定については丁寧に説明するか、もしくは見直しをしていただきたい。 「ICT環境整備事業」については、国の事業に引きずられることのないようお願いしたい。あくまでも自治体として必要なことを国の補助金を利用するという立場から、地域のニーズについて正しく説明できるようにしていただきたい。例えばアンケートをとるなど、エビデンスを利用するための工夫をしていただきたい。

基本政策：市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち
 政策目標：子どもたちの成長を育む多様な学びの場の充実
 施策名：4-1-3 豊かな人間性を育む教育の実践
 担当部：教育委員会

改善シート項目	議論結果							
	施策改善推進委員			施策改善市民パートナー				
I 政策目標の実現に向けた施策の取組について	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない		
課題が明確になっているか	4	0	0	7	2	0		
取組の方向性は合っているか	2	2	0	6	3	0		
課題解決に向けて取り組む事業として貢献できているか	0	4	0	5	4	0		
II 施策の有効性について	1 有効である		2 有効でない		1 有効である		2 有効でない	
政策目標の実現に向けた施策の有効性	3		1		7		2	

No.	所属	主な指摘事項、改善提案など
1	推進委員	・青少年健全育成事業は従来型事業の取組として、今の方法、やり方で良いかなど活動の内容を警察を中心に協議会で再考が必要かと思ひます。大会では良い事例は表に出るが、根本的な原因の追究、解決に至るようなプロセスが大切でアウトカムになるべきではないか。(響きプランは響き合うプランの方がコンセプト的には分かりやすい?) ・心の充実を図ることは難しいが、多様な教育内外体験を地域ぐるみで提供していくことが必要である。本日の内容の中で、地域教育力の向上をいかに上げるか、いじめ、不登校生徒への対応力強化、DXと教職員の働き方改革、大学との地域協働型学習支援、これらをキーワードとして、今後も議論を続けてください。
2	推進委員	・少年補導センター運営事業と青少年健全育成事業について、アウトカム指標がアウトプット指標になっている。事業・施策の成果を図ることが困難な施策ではあるが、事業と施策の適切な評価や改善には有効な指標を考案していただきたい。 ・響きプランF心の充実事業について、事務事業の成果を測定するような指標が設定されていないと考える。他の委員がコメントされていたとおり、保護者の視点で児童や生徒の成長を測ることも考えられる。
3	推進委員	・事業の課題・方向性について、個々の事業で見るとすんなり納得できるが、施策の目標実現からは離れてしまっていないでしょうか?それぞれ良い事業で、親の身からすると嬉しい取組なのでぜひ応援したいですが、それだけにエビデンスが必要かもしれません。全体的にですが、これらのレビューがどうこの先につながるのか、その進捗もどんどん公開していただければと思います。 ・会社経営でも同じですが、PDCAを回していくにあたって、少しずつブラッシュアップをされていくのが必要となります。背景・課題・目的は特に何をもちて効果を示すことが出来るかが重要になるので、手法ありきにならない様、市民も巻き込んでいってください。評価は少し辛口ですが、期待の裏返しです!!
4	推進委員	・事務改善シートには記載されていないが重要な情報を口頭でお伝えいただいた。そのような情報も発信しないと、施策や事業が正しく評価されない懸念がある。アウトカムの設定を見直す事業(響きプランF)があると思うので、検討していただきたい。 ・評価指標を記載間違いにより、本来アウトカムを記載すべきところにアウトプットが記載されていた。資料の適切な作成は、適切な評価の前提となるものであるため、確認をしっかりと行っていただきたい。
5	高校生	・私自身の意見は今日の施策レビューはいじめ問題、豊かな人生を過ごすという問題で、プランはたくさんあっても詳しい答えはないと思ひます。コメントとか申しあげる方達の意見とかもすごく大事だと気づきました。今日は子どもについて説明会ですけど、大人たちも子どもたちのため、どうやってふるまったら良いのかを言いましたので、非常にすごいです。 ・大人が知りたい問題はたくさんあるので子どもたちにも集まってそういう説明会のようにやってほしいです。来年も手伝う機会があれば嬉しいです。大人たちから政策を聞いてたくさん知識を得ました。ディベートのように自分の意見を出せるから嬉しいです。
6	高校生	・私の意見はいじめについて注意していることはとてもいいと思ひます。子どもだけでなく大人たちも含めての話と聞きました。 ・私の思いはいじめを減らすために勉強のプレッシャーも少なくするべきだと思います。学生がいつもストレスを感じていると、心にゆとりがなくなって人にきつくなることがあります。
7	市民パートナー	・障害者施設での利用者の自立にむけての行動に取り組むようにしていく。 ・福知山の施策と個人個人をどのようにマッチングさせていくかが必要ではないかと思ひます。
8	市民パートナー	・成果のあがる方策を他機関との連携を図って探すべきかと思ひます。
9	市民パートナー	・響きプランFの取組は、「費用対効果」だけでは図れない効用があると思ひます。演劇を観た全員が職業として目指すことはあり得ないですが、人生において何らかの効果があるものです。福知山市内に大型のホールが予定されていますが、誘致して身近で観劇できる環境になればなお良いと考えます。 ・「ネットストップトラブル講座」が募集上限を超えたとのことですが、対象者がある程度限定されていることから、十分な枠を設けていただきたいと願っています。
10	市民パートナー	・いじめ問題について、再発があるのか、再発の対応も同じなのか。
11	市民パートナー	・いじめに関しては、学校内で起こっていても学校だけの問題ではなく、家庭環境、親との関わりも大いに関係していると思うので学校内で見えなくなっても問題は解決しないです。子どもも社会は大人社会の縮図。何をするか、何をやれば...?より周りの大人の本気度、背中を見て子どもは育つので、大人がどうあるべきか?だと思います。
12	市民パートナー	・「響きプラン心の充実」は不登校の子どもたちにも工夫して良い機会を。「いじめ防止」は予算拡充を。「補導」のR7予算0は?「青少年健全」は予算3倍ですが内訳を。子どもに関する予算は子どもの意見を取り入れ進めてください。 ・たくさんの事業を一度に判断するのは難しい。
13	市民パートナー	・いじめの解消について、個々に対して細やかに沿う対応が解消につながったと思われ、その点についても評価いただきたい。 ・響きプランFはぜひとも継続していただきたいです。
コーディネーター		・施策のまとめとしてこれらの事業は有機的なまとめを持っているかは疑問です。「部活動地域移行」については課題が大きすぎると思われる。生徒のニーズに合わせた重点化が必要そうである。「中学生短期留学事業」については、「人権感覚」や「人権意識」が前に出すぎている印象である。 ・「二十歳を祝う会」については、「出席者の割合」はアウトカム指標として意味不明である。実数で書いたほうがよいのではないか。「地域未来塾」については学習支援員のリクルーティングが上手くいっていないということであった。大学生へのつなぎ方には工夫の余地がありそうである。地域の「やりたい」を活かせる道を頭を柔らかくして探していただきたい。

基本政策：市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち							
政策目標：学びを深められる地域資源の継承・発展							
施策名：4-3-1 文化財の保護・活用と地域文化の継承							
担当部：市民生活部							

改善シート項目	議論結果							
	施策改善推進委員			施策改善市民パートナー				
I 政策目標の実現に向けた施策の取組について	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない		
課題が明確になっているか	3	1	0	3	4	1		
取組の方向性は合っているか	2	2	0	3	5	0		
課題解決に向けて取り組む事業として貢献できているか	2	2	0	2	6	0		
II 施策の有効性について	1 有効である		2 有効でない		1 有効である		2 有効でない	
政策目標の実現に向けた施策の有効性	4		0		5		3	

No.	所属	主な指摘事項、改善提案など
1	推進委員	・無形文化財における継承方法についての課題の解決に向けての取組にさらに努力をお願いしたい。市民目線で見た指標づくり、文化財の利活用に市民の関わり度を指標にお願いしたい。
2	推進委員	・文化財であることを知らない市民が43%もあることは好ましくなく、市民が広く文化財等を認知することがなければ、学びを深めることに活用することは難しいと思う。担い手不足の原因の一つに高齢化、過疎化があると思う。市の他の施策と連携し若手の活性化が重要と考える。成果指標は市サイドでの指標であり、市民サイドに立った成果指標を設定する必要がある。 ・市民のニーズをまず把握し、ニーズに合った事業を展開することにより、政策目標である「学びを深められる」ものになると思う。現状では「学び」の観点より、市として他の事業も含めて統一的（関連性を保って）に取り組めていないように感じる。
3	推進委員	・課題は市民の認知、関心、担い手不足と理解。利活用の定義を広げ、学びと観光利用をつなげ、経済合理性を確保し、福知山市ならではの持続可能なサイクルをデザインしてほしい。市外の方の来場者が多いのも特徴的。市民、特に親子の来場はキーワード。 ・市民の認知がまず取組すべき課題。直接の広報だけでなく市のブランディング・PR戦略はもちろん民間企業や市民団体（有志）との横連携を強化し、市民認知の広さ、深さを拡大してほしい。市外から評価されることで再発見することもある。文化財指定のプレスリリース、ポスター掲示等、多面的・タイムリーに発信していただきたい。
4	推進委員	・（文化財を空気のように感じがちですが）重点事業について、特に異論ございません。その内身として「関わりしろ」（ボランティアとして、体験として）を分かりやすく打ち出す、PRされるのは良いのではと考えております。関係人口づくりに文化財はとても魅力的に感じています。この文化財の学びが市民の豊かな人生、シビックプライドの醸成に寄与すると感じます。数値KPIについては、数値化できる内容に寄ってしまうのは致し方ないと思います。従って数値の意味付け、この数値を活かしたものにしていきたいと思いました。 ・「文化財の守りと活かす」に一つの提案。学ぶというのは高校生までに地域の文化、資源を一通り学べるように体系化。文化のメッセンジャーとして、祭りの担い手として、市民ボランティアを募るといってもありえると思います。高校生が進学した時に、帰省した時友人に自慢するのは地元の名所めぐり、グルメです。一方で福知山に勤務している外部の方（工業団地等）、とても福知山が好きになられている方も多印象。企業のCSR活動と地域活動の持続化、環境保全活動に結びつけている事例（茨木市、森林サポーター等）、市民の定義を在勤者まで少し広げて持続化に結びつけることができるかもしれません。福知山おどり、企業連ありました。（私も踊りました）そんなイメージです。
5	市民パートナー	・福知山市の取組について詳しく聴かせていただく機会をありがとうございました。ご説明を聴くまで何も知りませんでした。このような機会をまだまだ多くの方に浸透させるのは難しいと思いますが、今日を境に自分にできることをやっていきたいと思っております。
6	市民パートナー	・文化財＝観光色が強く感じました。地味な仕事だと思ってしまうので、派手でなくとも良いかと。
7	市民パートナー	・従来から福知山に住んでいる市民への郷土のよさを再認識してもらうことが必要と思う。他県から入ってきて、こんな良い所がたくさんあるのに意識されていないように思う。 ・儲けるといふ考え方がないとすれば、経費を減らすのか、その設備を活かして利益を上げる方法を考えるてはいかか。少しの工夫で登城するとお金を払ってもらう等。
8	市民パートナー	・ぜひSNS（いがいと！福知山等）の活用をお勧めします。私自身も市の各種イベントはSNSから知ることが多いです。特に来客誘致を増やしたい事項は、定期的な情報発信を楽しみにしております。各施策やイベントでの来客数が分かると理解しやすいと考えます。費用対効果の面でも評価しやすくなります。次回以降、発表いただくと助かります。福知山城の夜間開門はできないでしょうか。イルミネイトなどの夜間イベント開催時に天守閣内を営業すると、来客数の増加につながると思います。また夜景もいい宣伝効果があると思います。現に夜間（夕方）に場内広場に來られる方は多いです。 ・夜久野関連の事業が統合されたことに関して、イベント開催時にJRやバスの増便や臨時運行が増えると、アルコールを飲むことができ、地元産品や料理の消費、来客数の増加が見込めると考えます。駐車場の増設に限界があることから、運行事業者との連携をお願いします。
9	市民パートナー	・市民自身がどんな文化財があって、それを大切に思い、保存していかなければいけないと思っているのが大事なことだと考えています。学校教育だけでなく、成人後のどんな年齢の方にも分かるようにしていただきたいです。自分たちが誇れる文化財がここには在って、幸せに感じられるのがまず大切なのではないのでしょうか。これらがどうなっているか分かりません。文化財を一つ以上知っているだけでは不十分だと思います。 ・適切な目標値の設定が必要だと思います。
10	市民パートナー	・学校との取組について、とても良いことだと思います。地域の学校だけに限らず、市内全域の学校へ働きかけては？ ・意識ある市民の力（資金）に働きかけては？市民の利用率を出し、どのように利活用するか。
11	市民パートナー	・もっと市が文化財事業に協力すべき。 ・説明的なことが多過ぎ。これからのビジョンが見えなかった。
12	市民パートナー	・有形、無形の文化財がある中で、どれかに焦点を当てる時、それに焦点を当てて達成できることを明確にする必要がある。文化財の維持を考えた時に、まず知ることは必要であります。有形はメンテナンス等にかかる費用の確保で可能ですが、無形は伝承が伴います。これは単に知識のみでは難しいと思われる。 ・評価シートの記述は抽象的でなく、具体的に記述しないと必要性が伝わってこない。事業の達成度を評価し、公開してほしい。
コーディネーター		・文化財等の保護を前提として、観光での活用を図るといふ優先順位はよいが、観光アクションプラン（R7福知山観光誘客促進会議）も策定されているところ、文化財保護の取組と観光の取組について、市民側からは見えにくくなっていると思われる。この点について分かりやすくご説明いただく必要があるのではないかと。特にアウトプット、アウトカム指標について、来場者数が掲げられているため、この点が市民からは分かりにくいと思われる。施策体系にも「文化財の活用」がうたわれている。市民側からは文化財について6割が知っている、4割がよく知らないということであった。これを広げていくための広報、PR、啓発は重要である。これを指標としていくべきではないか。京都市内に文化庁が移転していることを踏まえ、新たにできることはないか。 ・市民はどれくらい福知山市内の文化財の状況を把握しているのだろうか。城、鬼、芦田記念館、化石、漆、ダシ、和紙、社等多くの文化的レガシーが市内にはあるが、現状これがどれくらい共有されているか。またそれらの保存状況や観光の状況について、どれくらい市内に共有されているか。まちづくりとして文化財がどのように位置づけられているかが不明である。市民の視点、まちづくりの視点をもっと取組の中心に据えるべきではないか。全体として市長部局での政策的取組というよりも、旧来の文化財保護行政の色彩が強い。もっとまちづくりとして捉えると、伸びしろも見えてくるのではないかと。

基本政策：市民一人ひとりが、生活と仕事の調和の取れた、多様な働き方が生かされるまち							
政策目標：働く意欲を支える支援制度の充実							
施策名：7-1-1 スキル取得やキャリア形成の機会の創出							
担当部：産業部 市長公室 こども家庭部							

改善シート項目	議論結果							
	施策改善推進委員			施策改善市民パートナー				
I 政策目標の実現に向けた施策の取組について	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない		
課題が明確になっているか	3	1	0	6	4	1		
取組の方向性は合っているか	2	2	0	5	5	1		
課題解決に向けて取り組む事業として貢献できているか	2	2	0	5	5	1		
II 施策の有効性について	1 有効である		2 有効でない		1 有効である		2 有効でない	
政策目標の実現に向けた施策の有効性	4		0		9		2	

No.	所属	主な指摘事項、改善提案など
1	推進委員	・多層的（若者、シニア、就業難しい方々）に取り組みをされており、連携を取られている点は評価できる。スキル習得は一人ではできるが、キャリア形成はスキルを活かせる企業があつてこそ。活躍できる場を民間の力も最大化して広げつけてほしい。 ・企業に向けたアプローチ、教育があるといいのでは。行政は触媒であり、企業（仕事＝キャリア）と個人（スキル）のマッチング。先端スキルを活かせる企業を増やす、広げることが全体の生産性向上に必要。デジタル人材の求人が増えていくとよい。リモートワーク、自由な働き方もしやすく、子育て世帯等、家庭の事情に対応しやすい。大学進学される高校生の方に企業さんから「内定パス」（4年間有効）のようなものを発行されるアイデアもよいかも。エンゲージメント維持）インターン・アルバイトを通じて、いい学生さんを囲い込む。
2	推進委員	・現状の重点事業について方向性はこのままで良いと感じますが、申し上げたように多様な働き方と、地方の担い手不足のマッチに課題があるように感じます。時代に則して、例えば福知山⇄都会の労働力の働く場、福知山の地の利、自然豊かな住環境を活かして、福知山に在住して都会で働く⇄都会で住み福知山で働く、（サポート的な働き方や地域貢献、伝統行事の継承含み）、このような流動性がある福知山に属する労働人口、人口減の世界において、セクショナリズムを超えてひと・まち・しごとを考えてゆく時に来ているのではないのでしょうか？ ・ふるさと就職おうえん事業は若者層だけでなく、いよいよ地元に戻ってきた中高年層にも拡大してもよいのではないのでしょうか。何らかノウハウ、技術を伝承できるような人材と福知山で確保（教える側の人材という意味です。または社会における役割づくりも含め）システム化することで、U I J ターンの年齢を引き下げることにもつながる可能性もあり、このような層にも地元情報を伝えることができるネットワーク（先の北京都ジョブパークのように）が作れるとよいのではないかと存じます。
3	推進委員	・シニア世代よりも、20代～50代の働く世代に対するスキル取得やキャリア形成機会を市としてどのような手法で提供するのかを明確にする必要がある。単なる地元就職を進める事業では施策に対しては不十分と思う。 ・職業訓練学校のPRを進めてほしい。施策と事業の関連性が不明瞭と考える。福知山公立大学が市民のスキルやキャリアを伸ばす支援を積極的に行うべきだと考える。
4	推進委員	・スキル取得とふるさと就職おうえん事業とのつながりは特になくということであったが、地元企業の就職を進めるうえで、企業側に求めるものとしてインターンシップをどんどん取り入れると、スキル取得にもつながってくるものと思う。シニアの地元企業への再就職は今まで培ったスキルやキャリアを地元で十分に活かされるのではないかと考える。シニア人材を地元企業に上手くマッチングできる仕組みづくりに努力されたい。
5	市民パートナー	・企業紹介とともに自動車、自転車通勤できることをPRされると、若者等のU I J ターンの契機になると思います。都市部では公共交通機関の混雑、運行停止に疲弊しています。働きかけには強い要素になると考えます。 ・福知山公立大学との連携によるシニアワークカレッジの取組はとても良いと考えます。シニアのスキルアップと同時に、大学生や大学の活用で活性化が図れます。
6	市民パートナー	・三事業ともに施策に沿ったものになっていると考える。さらにトライ＆エラーを続けていただき、ニーズ・シーズに合ったものにしていただきたいと考える。さらに高齢者の働きかけとしての活用にも目を向けていただきたいです。福知山にはどんな業種の企業がどれくらいあるのか、平均的な収入、若者はどんな企業で働きたいのか、福知山に住むにはどんな環境で、どんな仕事かと思いたいのか。 ・就職に関するワンストップサービス（新卒、U I ターン、高齢者）の部署がないと、住民側からはどこに相談すればよいかわからない。
7	市民パートナー	・①施策体系シートで流れが分かるようにまとめられないのか。②評価シートは実施概要を除いてバックデータとすべきである。③評価シートにある実施概要を施策体系シートの事業欄に具体策として掲げ、目標値を具体的に設定する。④重点事業（予算額）を具体策として掲げるのであれば、コスト削減等の目標値が必要。会議の回数、広告費、人件費、時期等、R7の予算に対する目標設定で人材確保等の対策となるのか、重点対策ごとの具体策の目標設定を網羅する。⑤課題（重点施策）を掲げ、方向性欄（施策対策）として実施概要の項目を具体策として重点事業欄に掲げて目標値、成果実績、行程等記入すると流れが分かり、施策体系シートが充実すると思います。 ・①説明が多過ぎて分かりにくい。②課題や背景欄は重点実施項目を掲げるべきで説明は不要だと思う。③方向性欄から右の欄に急に重点事業が掲げられて関連性が分かりにくい。④課題と背景を踏まえ重点施策とする。⑤方向性は中途半端であり、重点施策の対策とした方がしっくりくる。⑥重点事業は重点対策ごとの具体策を掲げると、それぞれの分野で目標値が設定できる。⑦事業予算だけで重点施策に対する具体策とするなら予算をより多く獲得すれば目標値を達成したと言えるのか。事業予算の目標値設定にもう工夫を！⑧会議中や質疑応答の論戦で必要な具体策、目標値が設定できるのではないかと。
8	市民パートナー	・「シニアワークカレッジ」はもっと取りやすく、時間あるいはZoomでできるものは利用。学びたくても今のやり方ではせっかく良い講座なのに受講者が少なく残念。他に大型バス免許など送迎バスの運転手が不足している。（施設や保育園も）若者が流出、大学卒業生、何人の人が福知山で就職されたか割合をご存じなのではないか。LINE等を使った福知山就労あるいはタイミーのような福知山に特化した求人があれば、すべてにおいて広報不足と思う。 ・「ふるさと就職おうえん」について、就労一年目で車を購入するのは厳しい。例えば長田野工業団地へ巡回バスを提供する。（各企業がされている例も聞くので補助する）「ひとり親」について、看護はハードルが高いと思う人や向いていないと思う人もいる。通信やZoomで学ぶ講座を提案してみたら？コーディネーターの先生が突っ込んでいただいた農林事業、これこそもっと突っ込むべき。「希望があれば」では後手過ぎる。そういうとこにさえ出ないほど人材不足、赤字経営、うちのまわりは田畑は引き継ぐ人がいません。
9	市民パートナー	・福知山市の発展のために若い世代へのアプローチに対しては有効であると思いましたが、その若い世代の人生が豊かであり幸せであることを願います。
10	市民パートナー	・企業による奨学金があれば、就職で福知山に戻ってくる人が多いのではないかと。豊岡市でも取り組まれているように、特に女性が戻ってくるのが今後の福知山にとって大事だと考えています。この点においても、企業との連携、協力が重要だと考えます。
11	市民パートナー	・就職後に離職等ないか、確認はされているのか。スキルアッププログラムはIT系に偏り過ぎではないか。
12	市民パートナー	・①おうえん事業について、都会に出た若者がわざわざ福知山に帰ってくる理由を考えなければならない。特化したPR、勝ち筋。②シニアワークカレッジについて、いつまでにどんな人間を何人つくるのか？
13	市民パートナー	・看護師として意気揚々と就職してもブラックな職場だったため、他府県に再就職されたケースも。実際に親御さんからも聞いています。企業側の問題もあると思いますが、気持ちよく働ける職場であるのかどうか、行政として介入できないのかなどと思いました。 ・私自身もひとり親で育ったので、興味深く聴かせていただきました。高校進学は40年前、選択肢は限られており公立しか駄目という状況でした。今でも公立と私立では授業料に差があるので、（収入が少ない）ひとり親という理由で子どもたちの未来が閉ざされない支援をしていただきたいです。
14	市民パートナー	・政策目標に向けて各々施策を計画的に実施、成果について評価されていることが分かりました。 ・少子高齢化は全国的な問題であり、人材確保は都道府県、市町村、各企業が取り組んでいると思います。市だけの取組だけでは、他府県に就職してしまう。そのためにスキルやキャリア支援の取組を推進するために国・府・市の事業を個人に伝わるようにネット等充実させる（協働、ジョブナビ福知山）ことなど推進してほしい。
15	市民パートナー	・農業へのキャリア、スキルに力を入れてほしい。ドローンはいつから使われるのか？ ・キャリア、スキル取得がITばかり。スキル取得において、他のスキルはないのか？
	コーディネーター	・「ふるさと就職おうえん事業」については、例えば京都市内の大学・専門学校に対し、第二新卒も含めてアクセスするなどの努力も必要である。（各大学にキャリアセンターがあり、U I J ターンの促しもされている） ・「シニアワークカレッジ運営事業」については、既にシニアを対象とする事業ではなくなっていることから、事業名称及び位置付けについて再検討ありたい。 ・農林漁業についても、法人経営体が増えており、積極的にこれら経営体の取り込み、アクセスについても追及していただきたい。 ・「ひとり親家庭自立支援給付金事業」については、対象者498人に対して給付を受ける方が10人前後ということであるが、広報が足りないのであれば広報をアウトカムとして設定すべきではないか！ ・いずれの事業についても個人情報にかかる問題がある（含まれる）ことから、アウトカム指標の設定、公表については慎重であることが求められる。特に人数が少ないものについては、実数ではなく割合で表示するなど工夫が必要かもしれない。（個人の特定につながらないように）なお、またその反復についても慎重さが求められる。